

2020年6月26日

厚生労働省医政局

医政局長 吉田 学殿

チーム医療推進協議会

代表 半田一登



「COVID-19 による医療従事者の現状について」

アンケート調査の報告と踏まえた要望

前略 平素より、チーム医療推進協議会の運営、また各職種の職能団体の事業の運営にはご理解ご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

COVID-19の感染対策については、チーム医療の推進および各職種が所属する施設では大きな影響を受けているところです。喫緊で取りまとめました調査結果をご報告するとともに、安全・安心なチーム医療を支えるという点で、以下の点にご配慮いただきますよう要望いたします。

草々

記

1. 現場での感染にかかわる情報等について、全職員が適時、適切に情報を入手することができること
2. 各職種、部署等にあっては、必要な人員を確保、配置すること
3. 「マスク」その他の消耗品等、必要物品については、引き続き、確実に必要量を具備する最大限の努力をすること
4. 今年度、または今後の学生の学外実習の受け入れについて、チーム医療として各職種が連携・協働していく観点から、速やかに実習ができる体制を構築すること
5. 医療従事者の社会的な風評被害等については、引き続き、社会的な普及啓発に努めること
6. その他、今年度の養成施設最終学年の学生が、就職・採用や処遇などで不利益を受けることのないように配慮すること

【添付資料】

- 「COVID-19 による医療従事者の現状について」アンケート調査の報告
- COVID-19による医療従事者の現状について－第1回調査と第2回調査の比較－

以上

「COVID-19 による医療従事者の現状について」のアンケート調査の報告 (概要)

1. 概要

1) 第1回調査(4月21日～4月20日実施)の結果概要

88.7%が通常の勤務をしているが、20.7%が不安で勤務に影響がある回答とした。職場としても25.0%が不安で勤務に影響していると回答した。

感染の情報は、44.9%が適切、十分に伝えられているとする一方、合計41.9%が適切な時期や十分な内容ではないとしていた。今回の感染対策の状況で、人員の不足を指摘したのは16.6%であった。また、消耗品等では「マスク(90.7%)」を中心として不足している状況であった。

学生実習の受け入れでは、この時期に31.2%がすでに実習の受け入れない方針としていた。

なお、感染などについて不当と思われる扱いを受けたものが、4.4%以上いた。

2) 第2回調査(5月22日～5月30日実施)の結果概要

91.4%が通常の勤務をしているが、6.7%が不安で勤務に影響があると回答した。職場としても10.2%が不安で勤務に影響していると回答した。

感染の情報は、49.9%が適切、十分に伝えられているとする一方、合計39.5%が適切な時期や十分な内容ではないとしていた。今回の感染対策の状況で、人員の不足を指摘したのは12.2%であった。また、消耗品等では「マスク(68.8%)」を中心として不足している譲許であった。

学生実習の受け入れでは、この時期に16.7%がすでに実習の受け入れない方針としていた。

なお、感染などについて不当と思われる扱いを受けたものが、4.3%以上いた。

2. 第1回と第2回の調査結果の比較からの課題

第2回調査時点では6.7%と14ポイント減少したが、依然として不安を抱えて通常勤務をしている実態がある。職場としても、不安な状況を抱えている。

感染による人員の不足感は減少したが、依然として12.2%が不足していると指摘している。

「マスク」などの消耗品等についても、不足している回答は減少したが、依然として68.8%が不足していると回答している。

現場の実状として、16.7%が学生実習の受け入れをしない方針としている。

依然として、4.3%以上が不当な経験を受けたと回答している。

3. 今後の対応について

- 1) 現場での感染にかかわる情報等について、全職員が適時、適切に情報を入手することができ、安全・安心な医療を患者・対象者に提供できるようにすること
 - ・院内感染対策委員会等にすべての職種を配置するなど、適時・適切な情報を提供するとともに、職員の意識の向上と職責を果たす環境を構築する。
- 2) 養成段階における医師・看護師以外の職種への感染予防教育の強化
- 3) 各職種、部署等にあつては、安全・安心な医療を確保するために、必要な人員を確保、配置すること
 - ・本年4月採用の職員については、確実に採用するとともに、現場での適切な教育を通じて、安全・安心な医療の提供に努める。
 - ・各職種、部署等の状況に配慮し、何らかの事由により潜在する各職種の有資格者の採用を推進する。
- 4) 「マスク」その他の消耗品等、必要物品については、引き続き、確実に必要量を具備し、安全・安心な医療を提供できるように、最大限の努力をすること
 - ・医療の現場に必要な消耗品等については、引き続き、必要量を確保し、提供する。
 - ・また、医療だけではなく、介護保険における通所サービス、訪問サービス等においても感染の予防の観点から、確実に必要量を確保し、提供する。
- 5) 今年度、または今後の学生の学外実習の受け入れについて、安全・安心な医療を提供することおよびチーム医療として各職種が連携・協働していく観点から、速やかに実習ができる体制を構築すること
 - ・現状では、感染の対策の一環として外部からの施設内の入構についての制限があることはやむを得ないことと理解できるが、今後には有資格者となりそれぞれの職責を果たす職種となることを考えれば、実習経験のない状況ではチームとして安全・安心な医療を提供するという点で危惧するところである。早急に、学生が実習できる環境を構築し、現場と養成施設等で十分に認識を共有する。
 - ・管轄省庁が中心となり、例えば、現場と養成施設等で構成する検討会等で学生実習のガイドライン（仮称）等を策定し、現場および養成施設で確実に共有する。
 - ・現場では、ガイドライン（仮称）等に基づき、学生実習受け入れのための環境を整備する。
 - ・養成施設では、ガイドライン（仮称）等に基づいて、学生への指導を行い、現場での感染対策等についての理解を深める。

6) 医療従事者の社会的な風評被害等については、引き続き、社会的な普及啓発に努めること

- ・医療従事者とその家族が、社会的に不当と思われる差別を受けることや風評により苦痛を受けることがないように、社会的な普及啓発を継続する。

7) その他については、今年度の養成施設最終学年の学生が、実習を学内の実技や演習で振り返るなどのカリキュラムの特例を実施したことにより、就職・採用や処遇などで不利益を受けることのないように補償すること

「COVID-19 による医療従事者の現状について」
アンケート調査の報告

令和2年6月26日

チーム医療推進協議会

1. アンケート調査の目的

今回の COVID-19 の感染拡大に伴い、医療崩壊が危惧される中、チーム医療として多職種が勤務する現場での人的、物的な不足の状況やさまざまな風評被害等の現状のを調査し、少しでもチーム医療として各職種の働く現場の環境が改善できるように厚生労働省はじめ、関係者に情報を発信するために、チーム医療推進協議会のホームページを通じて、できる限り、働く現場での現状を調査することを目的とした。

2. アンケート調査の方法

アンケート調査は、google のフォームを活用し、現場の状況をできる限り反映できるように選択肢質問として、チーム医療推進協議会のホームページ上に掲載した。

また、アンケート調査への参加を広く呼び掛けるため、チーム医療推進協議会の参加団体には、各学協会のホームページ等にリンクを設定するように依頼した。

学協会では、ホームページへのリンクとともに、都道府県組織等にもアンケート調査への協力依頼を行った。

また、第1回調査、第2回調査ともに携帯端末からのアクセスをやすくするためにQRコードを設定し、回答するための便宜を図った。

* 第1回調査のアンケートは、2020年4月21日（火）10:16に公開、チーム医療推進協議会の参加団体に広報を依頼し、同年4月30日（木）17:00までに回答を得たものを集計した。

* 第2回調査のアンケートは、2020年5月22日（金）16:33に公開、チーム医療推進協議会の参加団体に広報を依頼し、同年5月30日（土）14:05までに回答を得たものを集計した。

3. アンケート内容と同意、個人情報の保護

アンケートは、職種、勤務先の医療・介護保険等の別、勤務先所在地の一般情報のほか、現状の勤務の形態、COVID-19感染拡大による不安、感染に対する情報への満足度、勤務先での物品の充足・不足について、職種の養成教育に重要な学生実習の受け入れについての現状の検討内容、本人や家族への風評被害や不当な待遇などの可否について、全13問の選択肢とした。

アンケート調査の同意については、協力して回答を送信することをもって本アンケート調査に同意したこととみなし、個人情報については google フォームを活用しているために、個々の回答としての回答者を特定することはできず、全体としての集計結果をもって保護するものとした。

4. 回答数

第1回調査：(N=14,994)

第2回調査：(N= 6,383)

5. 具体的なアンケート調査内容

問1 あなたの職種は？

- ① 医療ソーシャルワーカー
- ② リンパドレナージセラピスト
- ③ 管理栄養士
- ④ 看護師
- ⑤ 義肢装具士
- ⑥ 救急救命士
- ⑦ 言語聴覚士
- ⑧ 作業療法士
- ⑨ 歯科衛生士
- ⑩ 視能訓練士
- ⑪ 診療情報管理士
- ⑫ 診療放射線技師
- ⑬ 精神保健福祉士
- ⑭ 理学療法士
- ⑮ 臨床検査技師
- ⑯ 細胞検査士
- ⑰ 臨床心理士
- ⑱ 公認心理師
- ⑲ 医師
- ⑳ 歯科医師
- ㉑ 薬剤師
- ㉒ 臨床工学技士
- ㉓ その他

問2 あなたの勤務先施設について

- ① 医療機関（病院）
- ② 医療機関（診療所）
- ③ 介護保険施設（老健、特養、介護保険の通所サービス、入所サービス、訪問等）
- ④ 保健所等の公的施設

- ⑤ 民間企業
- ⑥ 障害者施設等
- ⑦ その他

問 3 勤務先の所在地は？

(都道府県名)

問 4 現在の勤務状況は？

- ① 通常勤務（通常通り、職場に通勤し、定時勤務をしている）
- ② 時間制限がある勤務（交代勤務などで、従来の勤務体制より制限がある）
- ③ できり限り在宅勤務（できる限り、施設に出てこないように指導されている）
- ④ 在宅勤務（基本的に在宅での勤務を指示されている）
- ⑤ 自宅待機（感染濃厚接触による待機）
- ⑥ COVID-19 の感染拡大により退職した
- ⑦ 勤務していなかった
- ⑧ その他

問 5 職場で感染することへの不安について

- ① かなり不安で、勤務に影響がある
- ② 不安はあるが、勤務には影響していない
- ③ 不安はそれほどなく、勤務している
- ④ 不安はない
- ⑤ 何とも言えない

問 6 職場全体としての職員の不安について（あなたの個人的印象で）

- ① 職員は、不安で勤務に影響がある
- ② 職員に不安はあるが、勤務には影響していない
- ③ 職員は、不安はそれほどなく、勤務している
- ④ 職員に不安はない
- ⑤ 何とも言えない

問 7 所属する施設の中の感染の情報のついて

- ① 情報は、随時、適切な内容が十分に伝わっている
- ② 情報は、随時伝えられるが、内容が十分ではない
- ③ 情報は、内容は十分だが、適時に伝わっていない

- ④ 情報は、適時伝わらず、内容も十分ではない
- ⑤ その他 ()

問 8 職場の現状の人員について

- ① もともと人員が不足していたが、さらに感染対策の状況で不足となった
- ② もともと人員が不足していたが、そのときと変わらない
- ③ もともとは比較的に人員が充足していたが、今回の感染対策の状況で不足となった
- ④ もともとは比較的に人員が充足していたが、そのときと変わらない
- ⑤ わからない
- ⑥ その他 ()

問 9 物品の充足について一下記の物品は、現状で充足しているか

- ① マスク
- ② 手袋
- ③ ガウン
- ④ フェイスシールド
- ⑤ 手指消毒剤（石鹼、除菌アルコールなど）
- ⑥ 消毒剤（機材、テーブル等の滅菌・消毒用）
- ⑦ ペーパータオル

問 10 物品の充足について一下記の物品は、現状で不足しているか

- ① マスク
- ② 手袋
- ③ ガウン
- ④ フェイスシールド
- ⑤ 手指消毒剤（石鹼、除菌アルコールなど）
- ⑥ 消毒剤（機材、テーブル等の滅菌・消毒用）
- ⑦ ペーパータオル

問 11 今年度の職種としての学生実習の受け入れについて

- ① 現状では、予定通りに実習を引き受ける予定である
- ② 引き受けられるかについて、施設として検討している
- ③ 引き受けられるかについて、職種（職場）として検討している
- ④ 引き受ける、引き受けないについて検討していない
- ⑤ 施設として、学生の受け入れはしない方針とした

日本精神保健福祉士協会
日本理学療法士協会
日本臨床衛生検査技師会
日本臨床細胞学会細胞検査士会
日本臨床心理士会
日本公認心理師協会

《患者会》

山梨まんまクラブ
あすなろ会
日本失語症協議会

5. アンケート調査結果

問1 回答者の職種

- 第1回調査では、「作業療法士（5148名・34.3%）」「言語聴覚士 1933名・12.9%」、「診療放射線技師（1497名・10.0%）」「臨床検査技師 1380名・9.2%）」「視能訓練士 1085名・7.2%）」の回答が多い。
- 第2回調査では、「作業療法士（1668名・26.1%）」「言語聴覚士 1138名・17.8%」17.8%）」、「臨床検査技師（713名・11.2%）」「視能訓練士 671名・10.5%）」「診療放射線技師 532名・8.3%）」の回答が多い。
- 第1回と第2回調査では、言語聴覚士 4.9、視能訓練士 3.3ポイント（%）などが増となり、作業療法士は 8.2ポイントの減となっている。

問2 所属する施設

- 第1回調査、第2回調査ともに医療機関（病院・診療所）に勤務する回答者が多かった。

問3 勤務先の所在地

- 第1回調査の回答者は、東京10%、北海道8%、埼玉6%、愛知5%、大阪4%、福岡4%であった。第2回調査では、北海道11%、東京7%、兵庫5%、埼玉4%、愛知4%、大阪3%、福岡3%であった。

問4 勤務状況について

- 第2回調査では、「通常勤務」が2.7ポイント（88.7%→91.4%）増となり、「時間制限がある勤務」0.6（5.3→4.7）、「できる限り在宅勤務」0.9（2.2→1.3）、「在宅勤務」0.4（0.9→0.5）ポイント減となった。

- 第2回調査では、「自宅待機（63名→4名）」0.3（0.4→0.1）、「退職した（14名→1名）」0.1ポイント（0.1→0.0）減となったが、回答者数のnが異なるので単純に減ったとは判断しがたいが、「通常勤務」が増えている状況を勘案し、現場の状況も落ち着きつつある様子が見えてくる。

問5 職場で感染することの不安について

- 第2回調査では、「不安はあるが、勤務に影響していない」は1ポイント（70.1%→69.1%）微減だが、「かなり不安で、勤務に影響がある」13.7ポイント（20.4→6.7）と大きく減少した。一方、「不安はそれほどなく、勤務している」は13.7（7.2→20.9）、「不安はない」1.4ポイント（0.7→2.1）と増加した。
- 「職員は、不安で勤務に影響がある」と「職員に不安はあるが、勤務には影響していない」と回答したものは第1回調査91.8%から第2回調査79.3%と12.5ポイント（%）の減少、一方「職員は、不安はそれほどなく、勤務している」と「職員に、不安はない」と回答したものは6.5%から19.1%と12.6ポイントの増加となった。
- 現状では、職場で感染する不安については、改善がみられていることがうかがえる。

問6 職場全体としての職員の不安について（あなたの個人的印象で）

- 第2回調査では、「職員は、不安で勤務に影響がある」は、15ポイント（25%→19%）減少、職員に不安はあるが勤務に影響はしていない」は、2ポイント（67%→69%）増加した。
- 「職員は、不安はそれほどなく、勤務している」は12ポイント（6%→18%）増加した。
- 現状では、職場での感染に対する不安は減少しているとうかがえる。

問7 所属する施設の中の感染の情報について

- 第2回調査では、「情報は、随時、適切な内容が十分に伝わっている」は、5ポイント（45%→50%）増加し、「情報は、随時伝えられるが、内容が十分でない」は、4ポイント（34%→30%）減少した。
- 感染の情報が随時、適切に伝わるようになってきたことがうかがえる。

問8 現状の人員について

- 第2回調査では、「もともと人員が不足していたが、さらに感染対策の状況で不足となった」は2.6ポイント（10.3%→7.8%）、「もともとは比較的人員が充足していたが、今回の感染対策の状況で不足となった」1.9ポイント（6.3%→4.4%）と減少した。

- 一方、「もともと人員が不足していたが、そのときと変わらない」は 5.4 ポイント (37.3%→42.7%) 減少、「もともとは比較的に入員が充足していたが、そのときと変わらない」は 1.3 ポイント (34.8%→36.1%) の増加となった。
- 職場の人員については、今回の感染対策の影響は少ないことがうかがえる。

問9 物品の充足について一下記の物品は、現状で充足しているか

- 第1回調査、第2回調査とも「ペーパータオル」は充足している。
- 第2回調査では、「マスク」以外は充足したと答える率が増加した。
- 第2回調査時には、第1回調査時よりも物品が確保できてきた様子が見える。

問10 物品の充足について一下記の物品は、現状で不足しているか

- 第2回調査では、「ガウン」を除き、「不足している」という回答は減少した。
- 第2回調査では、いまだに「マスク」が不足していることがうかがえる。
- 第2回調査時には、第1回調査時よりも物品が確保できてきた様子が見える。
- 第2回調査では、「現状では、予定通りに実習を引き受ける予定である」が 4.6 ポイント (8.4%→13.0%) に増加した。一方、「施設として、学生の受け入れはしない方針とした」は 3.0 ポイント (13.2%→10.2%)、「職種（職場）として、学生の受け入れはしない方針とした」は 1.5 ポイント (8.0%→6.5%) に減少した。
- 一方、「引き受ける、引き受けないについて検討していない」は 0.3 ポイント (10.5%→10.2%) と微減である。
- 第1回調査時よりも、学生の受け入れに際して柔軟な姿勢が見られる。

問11 今年度の職種としての学生実習の受け入れについて

- 第2回調査では、「現状では、予定通りに実習を引き受ける予定である」「引き受けられるかについて、施設として検討している」は増加、「引き受けられるかについて、職種（職場）として検討している」は微増し、「施設として、学生の受け入れはしない方針とした」「職種（職場）として、学生の受け入れはしない方針とした」は減少した。
- ただし、検討の状況については、本調査では詳細は不明である。

問12 今回の感染拡大に伴い、あなたは勤務先や職業（職種）を理由に不当と思われる経験をしましたか

- 第1回調査、第2回調査とも同等の割合だった。
- 調査を通して、7~8%の方が、不当と思われる経験をしている。

問 13 今回の感染症拡大により、あなたの職場が風評被害に遭うといったことがありましたか

- 第 1 回調査、第 2 回調査とも同等の割合だった。
- 調査を通して、12%の方が、風評被害にあったとの回答をしている。

【添付資料】

資料 1 第 1 回 COVID-19 に関する影響調査

資料 2 第 2 回 COVID-19 に関する影響調査

資料 3 第 1 回、第 2 回調査の比較（円グラフ等）

資料 4 第 1 回、第 2 回調査の比較（帯グラフ等）